

全学科共通科目の目次（平成29年度以前入学生用）

全学科共通科目

（特） 海外研修（アメリカ） ……	1
（特） 海外研修（フランス） ……	2
（特） 海外研修（台湾） ……	3
（特） 海外研修（韓国） ……	4
（特） 現代経済社会事情 ……	6
（特） 瀬戸内地域活性化プロジェクトⅡ ……	7
（特） 瀬戸内地域活性化プロジェクトⅢ ……	8
（特） 瀬戸内地域活性化プロジェクトⅣ ……	9
インターンシップ ……	10

ナンバリングコード B20TH-abxE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303641) (特) 海外研修 (アメリカ) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	外国語演習 (英語), 観光英語, ビジネス英語, アメリカ社会論	
	履修推奨科目	Communicative English I, II (全学共通教育)	
学習時間 研修事前指導 30分 ×10回 + 現地研修 8日間 + 自学自習			
授業の概要 年度末の春休み期間中にアメリカの大学(カリフォルニア州立大学フラトン校)において一週間の語学研修を行う(定員15名を教員が引率, 費用は参加者負担)。			
授業の目的 英語運用能力の向上とともに, 将来英語圏への長期留学を実現させるために必要な基礎的知識, 技能の習得をめざす。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 海外において, 日常生活に困らない程度の英語運用能力を身につける。 2) 現代アメリカの社会, 文化, 経済について理解し, 簡単な英語で説明できる。 3) 将来, 留学や海外旅行に自分の力で出かけることができる。			
成績評価の方法と基準 事前指導への参加, 現地英語研修の修了, 団体行動および自由行動において責任のある行動をとること, 提出されたレポートなどにより, 総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 出発前に5時間程度(30分×10回)担当教員より事前指導を受講。現地では, 午前, 大学内の英語研修施設において現地教員の英語指導を受ける。午後はセミナー形式の講義を聞いたり, 現地学生と交流を行う。週末の自由行動(観光)を含めた研修旅行全体についてのレポートを帰国後作成する。 研修プログラムの概要(2018年3月の例)は以下の通り。スケジュール等については変更される場合がある。 第1日 高松空港集合 羽田経由でロサンゼルス着 フラトンまで移動, ホテルにチェックイン 第2日 午前, オリエンテーション, 英語研修 午後 キャンパスツアー, 現地学生との交流会 第3日 午前 英語研修 午後 ヨガ講習 第4日 午前 英語研修 午後 セミナー(アメリカ社会問題), ダンス講習 第5日, 第6日 自由行動(L.A., ディズニーランド訪問など) 第7日 午前 英語研修 午後 大学植物園見学 第8日 午前 英語研修 午後 プレゼン発表会, 修了式, お別れパーティ 第9日 ロサンゼルス空港より羽田経由で帰国(翌日着)			
教科書・参考書等 参加者で協力して, 研修ハンドブックを作成。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 全学年受講可能だが, 海外旅行未経験の1, 2年生の参加が望ましい。 受講申し込み方法は, 後期に掲示にて案内する。事前に留学ガイダンス, 4月の海外研修報告会, 10月の海外研修説明会(いずれも日時は掲示板にて案内します)に参加し, 情報収集しておくこと。費用は, 前回(2018年3月)の場合, 渡航, 研修, 宿泊, 保険料で計25万円(為替レート, 燃油追加料金等により変動あり)。海外研修説明会の終了後より参加者の募集を行うので, それまでに参加の意思を固めておくこと。なお, 参加希望者が少ない場合, 研修の中止もある。留学生, 他学部生の参加については, 担当教員に相談すること。			

ナンバリングコード B20TH-abxE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303645) (特) 海外研修 (フランス) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ思想史、比較近代化論	
	履修推奨科目	フランス語I、フランス語II、フランス語III、フランス語会話、外国語演習 (フランス語)	
学習時間 事前研修 + 自学自習 + 現地でのフランス語研修 (4時間×5日) + 実地見学 + レポート執筆 + 報告会での発表			
授業の概要 ①ツールでのフランス語研修 ②現地での実践的研修 (1) 全体行動 (引率教員とともに) (2) 自由行動 (グループごとに事前に計画を立て、目的をもって自主的に研修) ③事前・事後研修 (1) 事前研修 (フランス語の学習、備知識の習得、自由行動の計画書作成) (2) 事後研修 (研修レポート作成および報告会への参加)			
授業の目的 ツールの語学学校でフランス語の基礎 (語彙・文法) と会話を学び、現地での生活のなかで生きたフランス語を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
現地で買い物をする際にお店の人とフランス語で会話することができる。フランス語研修で友達を作り、その後フランス語で手紙やメールのやりとりをする。			
成績評価の方法と基準 事前研修で作成する企画書 (しおり)、語学学校の修了証書、現地での活動への積極的な参加、研修レポート、報告会での発表			
授業計画並びに授業及び学習の方法 事前研修として、現地での活動の計画を立て、しおりを作成する。 フランス語の授業で学んだことを繰り返し復習し、現地での語学学校の授業に備える。 読む・書くだけでなく、話す・聞く練習も毎日行う。 語学研修の授業では、間違いを恐れず、自分から話すよう努力し、クラスメイトと友達になる。 事後研修として、研修レポートを作成し、報告会に参加して発表する。 日程は、2019年2月末～3月上旬頃、約10日間の予定。			
教科書・参考書等 特になし。			
オフィスアワー 事前に連絡・相談してください。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 全学共通科目の「フランス語」を4単位以上取得していることが履修の条件です。 多額の費用 (30万円程度) がかかりますので、あらかじめ計画を立てておく必要があります。 経済学部以外の学生も参加できますが、単位として認定されるかどうかは所属学部を確認してください。 経済学部生が4人以下の場合は、実施されないことがあります。 参加者15名前後を予定していますが、申込者多数の場合、選考を行うことがあります。 研修の日程が追試験期間と重なる場合があります。追試験を受けられなくなるか、あるいは予定どおり研修に参加できなくなる場合もあるので注意してください。 現地での研修を成功させるためには、事前研修が非常に重要です。なるべく毎回参加してください。 危機管理セミナーに必ず出席してください。			

ナンバリングコード B20TH-abeE-3N-Px2 授業科目名 (時間割コード: 303642) (特) 海外研修 (台湾) Special Lecture	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abeE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	アジア社会論、アジア文化論、 外国語演習 (中国語)	
	履修推奨科目	中国文化論	
学習時間 事前研修60分×3回、中国語授業90分×12回、研修報告90分×1回のほか、現地見学研修など8時間。			
授業の概要 本講義は主に香川大学と国際学術交流協定を結んでいる真理大学に於いて行う。中国語入門のレッスンを受けると同時に、真理大学の学生と交流を行い、台湾北部地域の教育文化施設などにおいて見学研修を行う。			
授業の目的 中国語を常用語とする社会で生活し、日本で学習した中国語を実際に運用してみると同時に、現地で中国語の授業を受け、既修事項の再確認をする。(DP「言語運用能力に」に対応。また学生との交流や、見学を通じて台湾の現状や文化について理解する。(DPの「知識・理解」に対応) これらによって、今後の学習意欲を高める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①台湾での現地体験を通して、中国語を勉強する意欲を向上できる。 ②今まで教室で勉強した中国語を現地で応用する能力を高める。 ③現地語学研修及び現地体験を通して、台湾や中国文化圏に対して視野を広げることができる。			
成績評価の方法と基準 研修先における中国語試験の成績と帰国後のレポートによる。 海外研修報告会における発表は必須。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
出発前の事前研修4時間(課題図書読了を含む)、真理大学での中国語授業(22時間)、見学研修など(8時間)、研修報告(2時間)。 (1)事前研修 台湾の社会経済文化など (2)現地研修(約2週間) 真理大学での中国語研修プログラム 北部台湾における研修見学など (3)報告レポート作成と報告会での発表 なお、細部については、11月頃決定の予定です			
教科書・参考書等 教科書:なし 参考書等:司馬遼太郎『街道を行く』(台湾紀行)朝日新聞社			
オフィスアワー 後期月曜5時間目 高橋研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 中国語を4単位以上修得の者(1年生は前期の2単位を習得し後期開講の中国語を受講している者)が参加できる。経済学部以外の学生も参加できるが、事前に担当教員に相談の上申し込むこと。なお、28年3月卒業予定の学生は、受講することはできるが、単位は出ない。この科目は履修上限の枠外で履修することができる。10月に詳細な説明会を行う。経費は実費を各自負担する。 経済学部の希望学生が4名に満たない場合、全体の参加希望が10名に満たない場合は実施しない可能性がある。			

ナンバリングコード B20TH-abcE-30-Pf2 授業科目名 (時間割コード: 303640) (特) 海外研修 (韓国) Special Lecture	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 abcE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 宮島 美花	関連授業科目	初修外国語「韓国語」科目	
	履修推奨科目		
学習時間 事前研修参加(複数回実施する)、現地での語学授業と社会・文化体験型授業、研修後のレポート、経済学部行事としての海外研修報告会での報告ほか			
授業の概要 8月の2週間にわたって香川大学の韓国の協定校において韓国語授業と実地研修(社会・文化体験型授業)を行う。			
授業の目的 現地での韓国語レッスンによって韓国語運用能力を向上させ、現地での社会・文化体験型授業を通じて韓国・朝鮮半島の歴史・社会・文化・政治経済への理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
韓国現地での韓国語レッスン、および現地での生活、通学・食事・買い物などの行動を通じて、韓国語でのコミュニケーション能力を向上させる。現地での社会・文化体験型授業を通じて、韓国・朝鮮半島の歴史・社会・文化・政治経済への理解・関心を深める。			
成績評価の方法と基準 事前研修の参加態度、研修参加中の参加態度および研修後のレポート等によって成績を評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 香川大学の協定校である聖公会大学(ソウル)の実施する「夏短期研修」に参加する。この研修には、香川大学の学生以外にも、聖公会大学の海外協定校(立教大学、恵泉女学園大学、大阪産業大学や、台湾、香港、マレーシアの大学)の学生が参加する。 以下は、昨年度2017年度のスケジュール(参考)である。 研修先大学: 聖公会大学(ソウル)(香川大学協定校) 期間: 2017年8月5日(土)～8月20日(日) 宿泊: 聖公会大学の校内の寮(食事はつかない)。洗濯施設利用可能。寮費は2人部屋で1日ひとり2万ウォン(約2000日本円)、3人部屋で1日ひとり1万3000ウォン(約1300円)。トイレトペーパー、洗濯洗剤は各人で購入。 食事: 校内のベーカリーや学食、学校周辺の食堂を利用する(各自負担)。 授業料: 91万8000ウォン(約9万1800円) 1日目 ソウル着。チェックイン。 2日目 自由時間 3日目 午前 入学式。韓国語レベルテストとクラス分け。 4日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(サムルノリ体験) 5日目 午前 韓国語授業。 6日目 午前 韓国語授業。午後 交流活動(韓国の学生との交流) 7日目 午前 韓国語授業。 8日目 午前 韓国語授業。 9日目 自由時間 10日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(伝統人形作り体験) 11日目 午前 韓国語授業。 12日目 午前 韓国語授業。午後 交流活動(韓国の学生との交流) 13日目 午前 韓国語授業。午後 文化体験(ミュージカルJUMP鑑賞) 14日目 午前 韓国語授業。午後 修了式。 15日目 自由時間 16日目 チェックアウト。帰国。 ※他にも、航空券代金(約5万円)、空港まで/からの移動費、海外旅行保険費用(必須)、パスポート取得代金、自由時間でやることにあわせた費用やお土産代などがかかる。 ※参加者全員が同じ飛行機の便に搭乗して渡韓・帰国する。 ※経済学部生が4名以上参加する場合:1日目は、担当教員(宮島)が日本の空港でソウル行きのチェックインをサポートし、引率教員の同行はない。ソウルのインチョン空港で、聖公会大学の出迎えを受けて以降は現地スタッフの引			

率を受け、その指示にしたがって行動する。担当教員（宮島）が研修期間中に現地に訪問し、学生たちの研修参加状況を見るほか、現地で参加者たちからの質問や相談などを受け付ける。

※経済学部生が4名以下の場合：1日目は、学生たち自身でソウル行きのチェックインを行う（教員の空港への同行およびチェックインのサポートなし）。ソウルのインチョン空港で、聖公会大学の出迎えを受けて以降は現地スタッフの引率を受け、その指示にしたがって行動する。担当教員（宮島）が研修実施中に訪問しないので、現地でわからないことや相談などは、自分たちで聖公会大学の現地スタッフに申し出ること。

受講申し込みののち定期的な事前研修を行い、渡航に備える。渡航後は、韓国語を集中的に勉強し、修得した韓国語を使って、社会・文化体験型授業に参加し、自由時間を利用して自主的に韓国を見て回る。帰国後は、ただちに担当教員（宮島）に帰国報告を行い、研修で勉強・体験したことをレポートにまとめて提出する（提出期日は別途指示する）。2019年4月の経済学部行事「留学ガイダンス」でパワーポイントを用いて研修報告を行う。

教科書・参考書等

教科書は特になし。韓国語授業の教材は韓国で配布される。

オフィスアワー 随時、相談・質問を受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- 1) 韓国語Ⅰの単位を取得見込み又は取得済みの者で、研修後の後期に韓国語Ⅱを履修予定又は単位取得済みの者。韓国語Ⅰを履修中の1年生から申し込める。
- 2) 渡航前に香川大学が実施する「危機管理セミナー」に参加し、研修後の2019年4月に経済学部行事「留学ガイダンス」において研修報告を行うこと。現地では、聖公会大学教員・スタッフの指示に従うこと。他大学との合同研修なので他大学の研修担当教員にも香大生としてきちんとした態度で接すること。
- 3) 5月に説明会を行うので、参加希望者は必ず参加すること。
第1回説明会 5月14日（月）昼休み12：15～12：45 場所：宮島研究室
第2回説明会 5月16日（水）昼休み12：15～12：45 場所：宮島研究室
同じ内容なのでどちらか1回に出席すればよい。宮島研究室は南キャンパス4号館2階（総合情報センター学生オープンスペースの上の階）。研修参加の申し込み方法や締め切り日は説明会で提示する。

ナンバリングコード B30TH-dbeE-20-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 302610) (特) 現代経済社会事情 Special Lecture	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 dbeE	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 実施委員会	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 現代社会の第一線で活躍されている経済人を講師に迎え、社会が直面している様々な課題について講義してもらう。さらに、大学での勉強が社会とどのようにつながっており、大学で何を学んでおくべきか、人生で重要なこと、就職事情等にも触れてもらう予定である。			
授業の目的 社会・経済の最前線で生起している課題について広く知り、受講生の経済・経営・社会に対する関心を高める。また社会の第一線の話の聞くなかで、大学卒業後の進路やキャリア等に対する指針を得る(学士課程のDP「倫理観・社会的責任」「知識・理解」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・社会・経済全般への深い見方ができ、問題意識を持つことができるようになる。 ・自身の進路やキャリアの確認、見直しができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 出席(受講態度含む)、毎回の「授業のまとめと感想」によって単位認定を行う。単位認定には少なくとも10回以上出席することを要求する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>講師及び講義題目についての詳しい内容は、7月下旬までに掲示する予定である。</p> <p>参考までに、平成29年度の講師は以下の通りであった。(講義順)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KCJ GROUP 株式会社 エグゼクティブ・アドバイザー 公益社団法人 会社役員育成機構 (BDTI) 理事 日本マクドナルドホールディングス株式会社 社外取締役 株式会社光通信 顧問 ・公正取引委員会 近畿中国四国事務所四国支所長 ・日本貿易振興機構 (JETRO) 香川 係長 ・香川県交流推進部長 ・高松国税局長 ・非営利株式会社ビッグ・エス インターナショナル代表取締役社長 大坂塾塾長 ・日本銀行高松支店 支店長 ・財務省主計局調査課 課長補佐 ・特定非営利活動法人 DREAMISLAND 理事長 ・スマイルゲート株式会社 代表取締役 香川オーリーブガイナーズ球団副社長 ・一般社団法人 かがわ県産品振興機構 理事 ・一般社団法人 ソシオデザイン 代表理事 ・くりや株式会社 代表取締役 ・香川大学インターナショナルオフィス客員教授 (前職: JICAザンビア事務所長) 			
教科書・参考書等 必要に応じて、資料配布			
オフィスアワー 未定			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 今年度の講師・講義題目、受講要領、および、受講調整の方法については、別途、掲示を行うので必ず確認すること。外部から講師を招いての講義になるので、くれぐれも講師に対して失礼のないような受講態度が求められる。学生の受講態度がそのまま香川大学経済学部の評価につながることを決して忘れないこと。注意を守る自信のない学生はこの科目を履修しないこと。また、講義題目は変更されることがあるので、授業やレポート提出前にHPで確認すること。			

ナンバリングコード B20TH-ceaE-50-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 303622) (特) 瀬戸内地域活性化プロジェクトII Special Lecture Project II on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分	時間割 後期土2	対象年次及び学科 2～2経済学部
	水準・分野 B20TH	DP・提供部局 ceaE	対象学生・特定プログラムとの対応 50
	授業形態 P	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 古川 尚幸, 西成 典久	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトI	
	履修推奨科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトI	
学習時間 授業90分×5回程度+フィールドワーク(45時間以上)+自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度(積極性など)・参加内容(取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。 したがって、以下の15回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。 1. プロジェクト対象地域についての学修① 2. プロジェクト対象地域についての学修② 3. フィールドワーク① 4. フィールドワーク② 5. フィールドワーク③ 6. フィールドワーク④ 7. フィールドワーク⑤ 8. 進捗状況の報告 9. フィールドワーク⑥ 10. フィールドワーク⑦ 11. フィールドワーク⑧ 12. フィールドワーク⑨ 13. フィールドワーク⑩ 14. 活動報告会のための学修 15. 活動報告会			
自学自習について 期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。			
教科書・参考書等 とくになし			
オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトIの履修者のみ受講できる。			

ナンバリングコード B30TH-ceaE-50-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 303623) (特) 瀬戸内地域活性化プロジェクトⅢ Special Lecture Project Ⅲ on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分	時間割 後期土3	対象年次及び学科 3～3経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 ceaE	対象学生・特定プログラムとの対応 50
	授業形態 P	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 古川 尚幸, 西成 典久	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトⅡ	
	履修推奨科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトⅡ	
学習時間 授業90分×5回程度+フィールドワーク (45時間以上) + 自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度 (積極性など)・参加内容 (取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。 したがって、以下の15回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。 1. プロジェクト対象地域についての学修① 2. プロジェクト対象地域についての学修② 3. フィールドワーク① 4. フィールドワーク② 5. フィールドワーク③ 6. フィールドワーク④ 7. フィールドワーク⑤ 8. 進捗状況の報告 9. フィールドワーク⑥ 10. フィールドワーク⑦ 11. フィールドワーク⑧ 12. フィールドワーク⑨ 13. フィールドワーク⑩ 14. 活動報告会のための学修 15. 活動報告会			
自学自習について 期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。			
教科書・参考書等 とくになし			
オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトⅡの履修者のみ受講できる。			

ナンバリングコード B30TH-ceaE-50-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 3036231) (特) 瀬戸内地域活性化プロジェクトIV Special Lecture Project IV on Regional Vitalization in Setouchi Area	科目区分	時間割 後期土4	対象年次及び学科 4～4経済学部
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 ceaE	対象学生・特定プログラムとの対応 50
	授業形態 P	単位数 2	
担当教員名 原 直行, 古川 尚幸, 西成 典久	関連授業科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトⅢ	
	履修推奨科目	瀬戸内地域活性化プロジェクトⅢ	
学習時間 授業90分×5回程度+フィールドワーク (45時間以上) + 自学自習			
授業の概要 自治体と連携し、各地域が有する課題を発見・探求し、解決策を考え、実践するというフィールドワークを取り入れた、プロジェクト型の授業である。			
授業の目的 授業終了時には以下の到達目標の達成を通じて、地域に愛着を持ち自信をもって社会に出ることができる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 地域の課題解決に参画し、実際に地域に貢献できる。 2. 地域の課題解決に参画することにより、課題探求・解決力が身につく。 3. 地域の課題解決に参画することにより、能動的な学習をもたらす主体的な学びができる。			
成績評価の方法と基準 授業およびフィールドワークへの参加時間・参加態度 (積極性など)・参加内容 (取り組み内容)、活動報告会での発表内容、レポート等により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 本授業は登録は後期であるが、年間を通して活動する。 したがって、以下の15回分の構成は目安程度として考えてもらいたい。 1. プロジェクト対象地域についての学修① 2. プロジェクト対象地域についての学修② 3. フィールドワーク① 4. フィールドワーク② 5. フィールドワーク③ 6. フィールドワーク④ 7. フィールドワーク⑤ 8. 進捗状況の報告 9. フィールドワーク⑥ 10. フィールドワーク⑦ 11. フィールドワーク⑧ 12. フィールドワーク⑨ 13. フィールドワーク⑩ 14. 活動報告会のための学修 15. 活動報告会			
自学自習について 期間中、地域に関する資料収集や読解を行い、地域についての理解を深める。さらに、実践活動についても全国各地の取組事例を調べて課題解決策を考える。			
教科書・参考書等 とくになし			
オフィスアワー 複数教員で担当するので、最初の講義時に教員ごとにオフィスアワーを知らせる。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 原則として瀬戸内地域活性化プロジェクトⅢの履修者のみ受講できる。			

ナンバリングコード B30TH-dcaE-30-Px2 授業科目名 (時間割コード: 303630) インターンシップ Internship	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 3 経済学部 (今年度「演習」 履修者のみ履修可)
	水準・分野 B30TH	DP・提供部局 dcaE	対象学生・特定プログラ ムとの対応 30
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 インターンシップ実施委員会	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間			
授業の概要 1. 対象は、3年次の学生 (今年度「演習」履修者のみ履修可) です。志望理由に基づく事前の書類選考を実施します。希望者数が入受機関の定員を超える場合には抽選等により選考を行います。 2. 研修は、原則として夏季休業期間中に1週間、民間企業、国の出先機関、地方自治体等で行われます。なお、参加者は、大学における事前教育、事後教育を受けるとともに、研修体験発表、レポートの提出等が義務づけられています。 3. 参加者は、学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険に加入しなければなりません。 4. 研修は無報酬です。 5. 研修受入機関や受入人数、実施スケジュール等については、5月に掲示する予定です。			
授業の目的 企業等の現場において仕事の現実を直に体験することによって、「働くということ」についての認識を深め、適切な職業選択を準備する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会人としてのマナーを身につけることができる。 2. 働くことの厳しさを身をもって体験することができる。			
成績評価の方法と基準 インターンシップ実施委員会が、受入機関の報告書や学生のレポート、研修体験発表などを総合的に評価し、単位を認定します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業計画 ～平成30年度 インターンシップ受講手順～ Step 1 第1回目授業 (日時は掲示にて周知) における説明会に参加 (全員必須) ↓ Step 2 研修先選択 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>大学斡旋の一覧にある研修先に行きたい → Yes → インターンシップ参加申込書提出</p> <p style="margin-left: 40px;">↓ No Yes</p> <p style="margin-left: 40px;">県内が良い → jobナビかがわ利用 (完全独自)</p> <p style="margin-left: 40px;">↓ No</p> <p style="margin-left: 40px;">インターンシップ・キャンパスウェブに登録・エントリー</p> <p style="margin-left: 40px;">↓ No</p> <p style="margin-left: 40px;">完全独自</p> <p style="margin-left: 80px;">↓</p> <p style="margin-left: 80px;">独自開拓</p> </div> <p>下記の条件を満たせば単位認定の可能性あり</p> <p>① 研修期間は1週間 (8時間/日×5日=40時間) 以上を原則とする</p> <p>② 研修時期 原則として夏季休業中 (8月6日～9月30日)</p> <p>③ インターンシップ実施委員会において承認されたもの</p>			